

第2回 泉佐野市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成27年11月2日（月）午前10時00分

2. 場 所 泉佐野市役所5階 理事者控室

3. 出席者

構 成 員	市 長	千代松 大耕
	教育長	中藤 辰洋
	委 員	北浦 秀樹
	委 員	南 一早枝
	委 員	畑谷 扶美
	委 員	山下 潤一郎
	委 員	中村 スザンナ
	委 員	赤坂 敏明

事務局及び関係職員

地域連携担当理事	中下 栄治
教育総務課長	樫葉 浩司
教育総務課教職員担当参事	茶谷 由孝
学校教育課長	明渡 賢二
学校教育課人権教育担当参事	東 壽美雄
市長公室長	道下 栄次
政策推進課長	松下 庄一
教育総務課主幹	北庄司 俊明
学校教育課課長代理	松若 理可

4. 議 題

(1) 大綱の策定について

5. 議事の経過

(午前10時00分開会)

檜葉教育総務課長

定刻になりましたので、只今から平成27年度第2回泉佐野市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の会議の進行を務めさせていただきます、教育委員会教育総務課長の檜葉でございます。よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、1名の方から傍聴の申込みがありました。総合教育会議設置要綱に従い、傍聴を許可したいと思います。

(傍聴者 入室)

はじめに、千代松市長から開会にあたり、ご挨拶をお願いします。

千代松市長

皆様おはようございます。皆様方には大変お忙しい中、第2回総合教育会議ということで、ご出席賜り有難うございます。また平素から本市の教育行政の推進に際しましては様々な面で多大なるお力添えをいただき、改めて感謝申し上げる次第です。

前回の総合教育会議から今回に至るまでの期間、この間には色々と運動会等も各学校であり、祝日や休日にもかかわらず、そういった場面に教育委員の皆様にはお出で頂き有難うございました。引き続き本市も色々と各学校でイベント等が行われますので、そういった面で何かありましたら、よろしくお伝えしたいと思います。今日は限られた時間でございますが、有意義な意見交換をさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

檜葉教育総務課長

有難うございました。それでは会議事項に入ります。

次第に沿いまして、「2. 大綱の策定について」ですが、前回の総合教育会議で「泉佐野市教育振興基本計画」をもって「大綱」に代えることを確認して頂きました。今回は、前回の会議でのご意見等をもとに一部加筆修正を行った「教育振興基本計画」について、皆様にご確認頂く内容をご説明させて頂き、最終決定をしたいと思います。

内容について、学校教育課 東参事から説明をお願いします。

東学校教育課人権教育担当参事

それでは本市教育振興基本計画案の修正について説明させていただきます。

パブリックコメントは、10月2日（金）から10月23日（金）までの3週間実施しました。その間にいただいたコメントは通学区域の見直しに関する1件だけでした。日根野小校区の方で説明会にも参加された方なのですが、そこでの質問や要望と同じ様な内容でした。

その他加筆修正については、9月の議員協議会等でご意見をいただいた個所を示しています。まず、（2）道徳教育を充実します の個所の最終行で、家庭・地域と連携したという文言を、家庭・地域に協力を頂きという丁寧な表現に。というご意見もありましたが、条文通り連携という記載とします。

（3）人権教育の推進に努めます の個所で、指標のいじめ認知件数で平成31年度0件になっているが、理想は分かるが、0件と標記するのはいかがなものか。というご意見があり、0件表記を未然防止、早期発見、早期解決に努め、いじめ件数の減少をめざす。という文章表記に変更します。

（10）国際交流を推進します の個所の青少年海外研修事業の指標において、サンシャインコーストへの派遣人数となっていますが、累計ですので、過去から遡っていきまるとアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドへの派遣がありますので、サンシャインコースト等への派遣人数という記載とします。

（12）通学区域を見直します の個所では、10月 パブリックコメント、地域説明会等 平成28年4月保護者への通知、広報・HPによる周知という記載を10月～11月 地域説明会、パブリックコメント 平成28年1月上旬 定例教育委員会（新通学区域の決定）に変更するものです。

尚この訂正につきましては、10月28日に行われました教育振興基本計画策定会議PT会議の承認を得ていることを申し添えます。

今後のスケジュールにつきましては、11月5日(木)に11月定例教育委員会会議で教育振興基本計画を決定し、11月中に書面(変更点を記したもの)と冊子で議員に報告する予定です。

桎葉教育総務課長

続いて、関連項目について、学校教育課 明渡課長から説明をお願いします。

明渡学校教育課長

関連項目である土曜授業について説明させていただきます。資料「泉佐野市立小・中学校における土曜授業実施要綱(案)」をご覧ください。

趣旨として「第1条 この要綱は確かな学力の定着・豊かな人間性の育成などを推進するため、各学校における教育課程の編成がゆとりをもった計画性のもと実施されるよう、また、開かれた学校づくりの推進をめざして家庭・地域との連携を一層深めるよう、土曜日を活用した教育活動についての必要な要項を定めるものとする。」とし、大綱にも記載しています文言と同じものとなっています。実施については、「第2条 土曜授業の実施内容は、次のとおりとする。（1）各月の第四土曜日を原則とし、月1回実施する。ただし、7月・8月・12月・3月を除く。これは長期休業期間との関係で、この様にさせていただきます。（2）授業時数は午前中3単位時間（小学校1単位時間45分、中学校1単位時間50分）を原則とする。いわゆる時間割で3時間分ということになります。（3）土曜授業は教育課程に位置付け、教科学習及び各学校の特色や独自性を生かした取り組みを行う。（4）土曜授業の実施にあたっては、学校の年間計画に盛り込むこととする。（5）児童・生徒の代休日は設けないこととする。」としています。週休日の振替等として、「第3条 土曜授業を実施する場合に

において、教職員の勤務については、次のとおりとする。（１）大阪府の「府費負担教職員の勤務時間、休暇等に関する条例」等に基づき適切に振替等を行うものとする。（２）市職員や非常勤職員等の勤務については、教育委員会で適切な処置を行うものとする。（３）長期休業期間中における統一した学校閉庁日３日間設定する。」ということで、教職員が夏休みに研修等が色々入って来ますので、なかなか振替が取りにくいところから、３日間を学校閉庁日としてはどうかということで考えています。補則として「第４条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。』としています。平成２８年４月からの実施ということで進めさせて頂きたいと考えています。

樫葉教育総務課長

ただいま、学校教育課から説明がありましたが、ご意見ご質問がありましたら、お願いします。

山下教育委員

授業時数はなぜ３時間なのですか。

茶谷教育総務課教職員担当参事

３単位時間にしているのは、勤務時間の関係であり、もし４時間単位にしてしまうと、教職員の勤務が半日でおさまらなくなってしまいます。一日となる場合も、振り替えれば良いのですが、先生方の勤務が１週間まるまる一日の勤務が６日間になってしまいますので、先行実施の都道府県等の状況を参考にし、大体３単位時間で行っているという状況がありましたので、このように計画させていただきました。

中藤教育長

山下委員は４単位時間にした方が良いという意見ですか。

山下教育委員

昔は４時間がありましたからね。２００２年度から土曜日の授業を無くして、その時は教職員の勤務時間が逆に余ってきましたよね。今現在、それを４時間に戻して足りないというのはどういうことなのか教えて欲しいです。

茶谷教育総務課教職員担当参事

以前も土曜日に授業があった分については夏休み等への振り替えを行っていました。それは今回と同じです。ただ前回までは１日８時間勤務でしたが、現在は７時間４５分勤務に変わっていますので、４時間休みにするか、３時間４５分の休みにするか、どちらかにしなければいけないというふうになっています。

中藤教育長

土曜日が全部、他の公務員も含めて休みになった時に労働基準法が変わったということですか。

茶谷教育総務課教職員担当参事

労働基準法自体は変わっていません。

山下教育委員

それなら別に以前はそれができたのであれば今回も可能ではないのですか。

千代松市長

教職員の方々は、その当時は夏休みにその分の休暇を取得していたのではないですか。今は夏休みなどの長期休業中もきちんと出勤しないといけないでしょう。

茶谷教育総務課教職員担当参事

毎土曜日に学校があると、原則はその週に取らなければいけないのですけど、やはり子どもを置いて休むことが出来ないのも、夏休み等にその振替を全部回していたという形になります。4単位時間にすると、4時間目が終わる時間と、ほぼ同じ時間になってしまうことになります。

中藤教育長

現在7時間45分の勤務になっていて、4時間目を行うと半日を越えてしまう、振り替えが半日でなく1日になってしまう、だから3時間ということですか。

茶谷教育総務課教職員担当参事

はい。具体的に申し上げますと、例えば今、教職員は8時20分に出勤しており、4時間勤務とすると12時20分までとなります。12時20分を過ぎてしまうと、次の半日分が発生し、その勤務を命じてしまうと、結局一日勤務を命じなければならない形になります。実際に4時間目が終わるのは小学校が12時25分、中学校が12時30分ですので、教職員の勤務時間を越えて授業を行うことになりますので、今回午前中3単位時間という形で計画しています。

山下教育委員

5分、10分のことですが、そうなるのですね。

中藤教育長

試行的にということで、大阪府内でも初めての実施ですし、子どもたちの負担や振り替えのこともあり、とりあえずこれで実施したいと考えています。

中村教育委員

2002年以降、土曜日の授業が無くなってからの先生方の夏休みは、どのような勤務となっているのですか。

茶谷教育総務課教職員担当参事

原則は勤務日になっていますので、出勤され、教材研究や一学期に行った児童や生徒の書類のまとめ、二学期に向けての教材研究や校内研修を組まれたりなどという形で出勤されています。

中藤教育長

自宅研修を認めたりしていた時期もありましたが、原則勤務を要する日となっているので、休暇等の場合は、今はきっちりと届出を行っています。

桎葉教育総務課長

土曜授業については、他に何かありませんか。

茶谷教育総務課教職員担当参事

先程、明渡課長から実施は平成28年4月からという説明がありましたが、要綱に関しましては3月20日からの実施となっています。なぜそのような形になっているかといいますと4月の第4週に実施した場合、勤務の割り振りというのがあり、土曜日に出勤する代わりに、どこかで休みを取らなければならない、そうすると労働基準法で前は4週、後ろは8週、教育職員に関しては16週までとすることがあるのですが、前4週で代休を取得したいという方がいた場合、4月1日以前まで遡ることになりますので3月20日という形になっています。

桎葉教育総務課長

他に、ご意見、ご質問等ございませんか。

皆様よろしいでしょうか。

その他、大綱についてはいかがでしょうか。

千代松市長

私が市長に就任させていただいた時に、前の市長からの引継ぎ事項の一つとして、市営プールの老朽化という問題がありました。しかし、その当時は学校施設の耐震化や改善もまだ終わっていない時期でしたので、とてもじゃないですが、その時からスタート出来るという状態ではなかったので、言葉は悪いかもしれませんが先送りさせて頂いていました。現在、公共施設に関しては国の方から今後50年間、どのように公共施設を管理運営していくのか、ファシリティマネジメントみたいな部分の計画を作るようにという指導があります。また、9月議会では中村議員から、学校水泳やプール施設に関する質問や要望があり、それがきっかけという訳ではないのですが、以前からも泉佐野市の教育の中での教育課題として捉えてきましたので、この泉佐野市教育振興基本計画を成案としていく中で、やはり市営プールの位置づけという部分、今後どうしていくのかについては盛り込んでおくべきではないのかなと考えています。そういう中で現在、市営プールは各中学校の近くにあり、佐野中学校だけは末広公園に50mのプールがあったということと、それが無くなってから健康増進センターに温水プールが出来たこともあり、佐野中学校の周辺にはプールはありません。今後は各中学校に学校プールという位置づけの中で整備していく方が良いのではないかと考えており、そういうこともき

っちりと、この基本計画の中に盛り込んでいきたいと考えています。いかがでしょうか。

中藤教育長

市長からもありましたように、9月議会で中村議員からご質問があつて、私の方から老朽化している4つのプールの建て替えと、佐野中学校は近くにプールが無いので敷地内にプールを作る方向で検討していますという答弁を行っています。教育振興基本計画の(11)安全で快適な教育施設の整備・充実に努めます。の個所で、耐震改修工事や空調の工事が終わり、今後は机・椅子の更新とトイレの洋式化やエレベータの設置などを年次的に行っていくとの記載の後に、市営プールの建て替えと佐野中学校にプールの新設を行うというような文言を入れさせてもらったのかなと思っています。具体の文言は事務局に任せて頂くとして、基本計画に盛り込むということではよろしいでしょうか。

(全員 異議なし)

桎葉教育総務課長

他に何かありませんか。

千代松市長

今日たまたま、泉佐野税務署長が来られ、租税教室の実施を教育委員会にお願いしてくれないかと言われました。全国的に税務署職員や税理士会の先生方が各学校に赴いて租税教室をされるのですが、その実施率がこのエリアはかなり低いということもありました。色々と教育のカリキュラムも詰まっ
ていて土曜日も授業を行っていきこうという中で申し訳ないですが、税は公的な行政の根幹ですので、それを小さい頃から知識として取得しておくのは大事なことであると思いますので、よろしくお願
いします。

中藤教育長

租税教室は今年度は4校を予定しています。それ以外にも税の作文を5中学校でやっていますし、小学校では税の習字をやらせてもらっています。引き続き取り組んでいきたいと思っています。

桎葉教育総務課長

他に、ご意見、ご質問等ございませんか。

皆様よろしいでしょうか。

(全員 異議なし)

それでは、皆様にご確認頂きましたので、先ほどの学校プール施設の整備を盛り込んだ形で「泉佐野市教育振興基本計画」をもちまして本市における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本的な方針を定める「大綱」とすることを決定し、ならびに市長と協議したものとして、11月5日の定例教育会議で最終決定することによろしいでしょうか。

(全員：異議なし)

桜葉教育総務課長

有難うございます。

それでは、続きまして、「3. その他」にうつります。

現在進めています新通学区域（案）の説明会について 進捗状況等を教育長からご説明をさせていただきます。

中藤教育長

小学校区毎の説明会の日程については、大木小学校まで終わっています。私以外に教育委員も出席して頂いており、日新小学校だけは1名になっていますが、後は2名ずつ出席して頂いています。

説明会の追加については、日根野小学校区の説明会で就学前の子どもをもっている保護者の方は夜の時間帯はなかなか出にくいという要望を受け、11月7日(土)と15日(日)に一時保育もしながら午前中の時間帯に追加で説明会を実施することになりました。併せて日根野小学校区の説明会は、7時から10時過ぎまでかかり、他にももっと意見があり、教育委員会の説明では納得できない、ぜひもう1回実施して欲しいという要望がありましたので、11月17日(火)に2回目を実施する予定で、この時には市長も出席頂ける予定です。

説明会での主な意見や要望については、まず第三小校区では調整区域だと結果として第三小学校の小規模化が解消されない可能性が高いので調整区域にするのはやめて欲しいという内容。日根野小学校区では審議会の方針に反して結果として複数の町を分断している、そのことが子ども会活動をはじめ地域コミュニティを分断することになる。教育委員会は理由の一つに、JR阪和線の横断のことを言うが、小学校低学年児童はバス通学をしており、JR阪和線の横断も危険性は少ない。土丸は50数年前に教育委員会の指示で日根野小学校に行くように言われ、今度は大木小学校に行けというのかと。土丸の児童数は現在13人で更に減ることも予想され、登校後に土砂崩れ等で交通が遮断される可能性もあるので考慮して欲しい、指定校を従来のままで調整区域にして欲しい。そうすれば地域コミュニティの分断も最小限になるといった意見がありました。上之郷小校区では、机場の空連道交差点は幅員も広くなく危険性も少ない、空連道より大阪側の母山・机場の児童は10人余りなので、指定校の変更は考え直して欲しいという要望です。末広小校区では現在でも、むか新近くの踏切や末広公園手前の横断は非常に危険であり、今後、松原町や羽倉崎の児童も横断するとすると危険性が高まる。市として何らかの対応策を考えて欲しい。踏切の拡幅の要望もありましたが、南海電鉄との協議も必要で、拡幅工事に係る経費はほとんどが市負担になり、膨大な予算がかかるので難しいという答弁をしています。第一小校区では、教育委員会は空連道の危険性を強調するが、松原町や羽倉崎から末広小学校に通うとなると、旧26号線や南海電車の踏切を横断しなければならない。旧26号線は交通量も多いし、むか新近くの踏切は狭く車はもとより自転車通学の中学生も多く非常に危険である。そのことを含め指定校の変更は理解できないということ。日新小校区では中庄の一部(JR阪和線より浜側)は開発中で58戸建設予定である。町会加入促進のため、不動産業者にも協力を依頼しており、盆踊り、だんじり、福祉委員会等にも力を入れていきたいので、町を分断する事には一考願いたい。すでに予約した保護者からも日新小と聞き購入したので一考願いたいということでした。大木小学校区

では、土丸が来てくれたらありがたいということで特にご意見はありませんでした。あと3校が残っている状況です。

今後に向けては、説明会でもお伝えしていますが、10月30日から11月20日までパブリックコメントを受け付け、年明け1月上旬の定例教育委員会議で新通学区域を決定。29年4月からの新通学区域の施行となり、決定次第、広報するということも説明しています。最後に、その他として書いていますが、例えば調整区域をやめて欲しいとか続けて欲しいとか、相反する要望も出ていますし。とにかく全市的な大きな事となりますので、所管は教育委員会ですが、市長の政策判断を仰がなければならぬ様なこともあるかと思っておりますので、よろしくお願いします。

檜葉教育総務課長

この件について、ご意見ご質問はございませんでしょうか。

無いようですので、続いて来年度の国際交流事業等について教育長より説明をさせていただきます。

中藤教育長

教育委員会が所管している今年度の国際交流事業の一覧となっており、簡単に説明させていただきます。

モンゴル友好交流事業は、7月21日(火)から24日(金)まで実施しました。南教育委員と今後小学校も検討してはということもあり北中小学校の武井校長にも行ってもらいました。昨年度と同じ各中学校2名で生徒は合計10名参加しました。決算額は契約額の3,242,442円です。

日体大児童派遣事業は、体力向上プログラムとしての日本体育大学への訪問です。モデル校が佐野台小学校ということで7月27日(月)から28日(火)に実施し、私も同行しました。佐野台小学校の5・6年生26名が参加しました。予算の段階では4年生も含めてと考えていましたので、予算額は大きくなっていますが、決算額は契約額の1,651,433円です。

青少年海外研修事業は7月30日(木)から8月16日(日)まで実施し、北浦委員に8日間同行して頂きました。青少年の参加者は例年通り10名で、決算額は6,877,571円です。自己負担が一人当たり200,000円で、関西国際空港株式会社から海外研修事業だけではなくて全ての国際交流事業に対して合計約2,200,000円の補助金を頂いていて、そのうちの幾らかがこの中に入りますので、市の持ち出しは3,000,000円程度となっています。教育委員の視察分も、この補助の中に入っています。

東日本大震災被災地訪問事業は2年間は中学生が、昨年度と今年度は少年消防クラブのクラブ員が参加し、今年度は5・6年生22名が参加し実施しました。決算額は1,634,727円です。

サンシャインコーストマラソン派遣事業は8月27日(木)から31日(月)まで。泉州国際マラソンで泉佐野市内で1番の成績を修められた男性と女性を招待して、サンシャインコーストのマラソンに出場して頂きました。

絵画交流事業は昨年度実施し、今年度は予算の段階では、実施するかしないか分からなかったのですが、予算を計上していましたが、結果としては、これが無くなり、その事業の代わりに英語教育推進のモデル校を長南小学校と長南中学校としていますので、長南小学校の児童3名を年明け1月31日から2月4日(木)まで派遣するようになっています。

泉州国際市民マラソンランナーの受入事業はサンシャインコーストから2名、モンゴルから1名を

受け入れる予定にしています。

これが今年度の本市の国際交流事業です。来年度どうするかということで市長とも相談して考えていることを申し上げます。まず、モンゴル友好交流事業は、小学生にもどうかということで武井校長にも行って頂きましたが、同行した教育委員からも、ちょっと小学生は厳しいのではという意見もあり、まだ2年しか実施していませんので、来年度も中学生で同じ様な形で考えています。次に体力向上プログラムの日体大への児童派遣については、佐野台小学校をモデル校にしているので、しばらくは佐野台小学校で行う方が良いのではないかとということで、5年生は今年度行っていますので、来年5年生になる今の4年生は22名と多い学年ですので、その子どもたち、佐野台小の5年生に引き続き行ってもらおうよう考えています。青少年海外研修事業は、例年どおり実施したいと考えています。東北への被災地訪問については、2年間中学生で、ここ2年間は小学生が訪問を行っています。被災地もかなり復興が進んでいるということで、継続するかどうか検討しましたが、こちらの新聞もそうですが、東北の新聞にも、この訪問が取り上げられたり、泉佐野市がこんな取り組みをやっているということで皆さんに知って頂いている状況ですので、まだ止めるのは早いというか、とりあえず来年も小学生、少年消防クラブに一旦打診を行い、もう5・6年生は行っているので、来年5年生で新規に入る子がどれくらいの人数になるかは分からないのですが、その状況も見ながら、少ないようであれば他の小学生にも声をかけたりしながら継続する方向で考えています。マラソン派遣事業も継続で、英語教育推進校児童派遣事業は、英語教育推進事業は来年度から全市的に広めようとは思っているのですが、長南小学校をモデル校として実施していますので、引き続き長南小学校に来年度も行ってもらったらどうかと思っています。マラソンランナーの受入事業もそのまま継続ということで考えています。以上が来年度国際交流事業の実施に向けて市長と話し合っている内容です。また、赤坂委員はまだどちらへも行って頂いていませんし、他の教育委員も、モンゴルかサンシャインコーストのどちらかで、両方行っていたいただいている方はいませんので、ぜひ参加して頂きたいと思っています。

樫葉教育総務課長

来年度の国際交流事業等について、ご意見ご質問はございませんか。

畑谷委員

長南小の子どもを連れて行く、児童派遣事業の行先はサンシャインコーストなのですか。

中藤教育長

はい、そうです。長南小学校の5年生に募集したところ多くの子どもたちが行きたいと、40名が応募してくれ、作文審査などで3人に決めさせて頂きました。

北浦委員

向こうに行って英語を勉強したりとか、交流されるのですか。

松若学校教育課長代理

はい、現地の学校で半日・半日で2日間入らせてもらい、英語の体験レッスンを実施します。

中藤教育長

ホームスティも行うのですね。

松若学校教育課長代理

はい。

山下委員

120万円もかけて実施して、3人だけが行けるのであれば、外国人の先生を連れてきて、取り組みをする方が有意義ではないですか。

中藤教育長

外国人の先生の授業は、既にどここの学校でも実施しています。

山下教育委員

全市内で3人だけでしょ。それではあまり意味が無いのではと思いますが。

中藤教育長

モンゴルなどの交流事業も同じことですからね、

山下委員

自己負担はいくらですか。

中藤教育長

自己負担はありません。青少年海外研修事業は20万円ですが、モンゴルなど他の事業は自己負担を求めています。

山下教育委員

モンゴル友好交流事業などはなぜ、自己負担を取らないのですか。青少年海外研修事業は自己負担を取っているのですよね。

中藤教育長

対象が15歳以上で、義務教育と違うというのも理由の一つです。

山下委員

やはり受益者負担というのは求めていかないといけないと思います。ただ、金銭的に困難な子どもがいるのであれば、その時は修学旅行みたいな感じで、就学援助みたいな形で補助を考えたら良いのではないですか。

中藤教育長

ただ、モンゴル友好交流事業も2年間無料で実施しているので、次年度から負担を求めるのもなかなか難しいと思います。義務教育ということもあるしね。

山下委員

義務教育でも修学旅行は負担していますから。

中藤教育長

そういう意味では無く、15歳以上では、少し違うということを申し上げているだけですが。

南委員

被災地訪問については、だいぶ向こうも復興が進んでいるのですよね。どの辺り、同じ様な所を見学ということですか。

中藤教育長

中学生と小学生では訪問した場所も違いましたし、場所を変えることは可能だと思いますが、向この消防署の受入の関係もあるので、そこは消防署にお任せしています。復興も一定進んでいますが、まだ完全に復興出来た訳ではないし。それと先程も言いましたように、色々やっと広報で取り上げられたところなので、急に止めるのも。まだもう少しできれば続けてと思っています。

山下委員

別にマスコミは関係ないのではないですか。この前、教育長がおっしゃったように泉佐野市の学力がだいぶ低下している、大阪府は少し上がって、泉佐野市は依然低い位置にあるということで、これから学力を上げていかないといけない状況の中で、これらの派遣事業などにお金をかけるのであれば、もっと地に足が付いた学力を上げるような使い方をした方が良いと思います。

中藤教育長

学力は学力で、市長は色々なハード面の整備も力を入れてやってくれていますし、今回夏休みの短縮や土曜授業で授業時間を増やしたりということも並行して行っているんで、これはこれで特色ある事業として継続していきたいということです。

山下委員

日体大に子どもが26人行って、先生方もたくさん随行して、大学の体育館を見学したりなどするのでしょ。やっている意味がそれほどあるのかと、私は個人的に思います。それなら学校に来てもらって全校児童に対して指導して頂くとか、それも同じなのではないですか。

中藤教育長

何事もそうですが、被災地訪問も百聞は一見にしかずというのか、話を聞くのと現場へ行くのは違

いますし、この前も体操の田中理恵さんに直接指導してもらったり、バランスボールの指導をしてもらったり、やはり向こうのすごい施設を見て、直接感じてもらうということは全然違うと思います。ただ、それだけのお金をかけてどうかという山下委員がおっしゃっていることも分かります。

山下教育委員

なぜ、佐野台小学校に限定するのですか。

中藤教育長

これは通学区の見直しとの関係もあり、第三小学校はＩＣＴ教育モデル校という位置づけでタブレットパソコンを導入しているのと同じで、将来的には市内全校で出来たら良いのですが、とりあえずモデル校ということで佐野台小学校で体力向上プログラムとして実施しています。小規模校ですが、そういう事業に取り組んでいる学校であれば、行きたいなと思えるような、その一環でもあります。

山下委員

スポーツに興味がある子を全市から募って実施するのであれば分かりますよ。このような形はどうかと思います。被災地訪問についても、実際には少年消防クラブ、ようするに消防署に丸投げしている、消防署少年クラブが行っているのですよね。

中藤教育長

そうです。市内の小学校に通っている子どもたちで、日頃から防災について勉強してくれています。

山下委員

本当に子どもたちのためになっているのかな。

畑谷委員

山下委員はそうおっしゃいますが、実際に中学校で東北に行った子どもたち、第１回目の子どもたちは、大体生徒会の役をしていた子どもが多かったと思うのですが、行くときと帰ってきたときでは、子どもたちの雰囲気が全然違いました。被災地訪問に行って帰ってきたら、すごく成長して見えて。実際その年の卒業式に行かせてもらったのですが、行った生徒が答辞を読んでいたりと、みんなを引っばっていく力ができていたように思います。モンゴルに行った子どもたちも運動会を見せて頂いたら、各中学校には２人ぐらいしかいないのですが、何かみんなの中に収まっているのではなく、前に出てきて何かをしている子どもになっているのです。やはり泉佐野だけにいるのではなく、よそに出てどんなものか、泉佐野だけでなく日本は広い、世界は広いというのを見て、たぶんすごく良かったということをみんなに言いたくなると思うし、自分がそんな事をできたのだと思ったら、みんなの前に立って生徒会の役をしよう、学級委員をしよう、みんなをまとめていこうという風な、そういうことができる子どもになるような気がするのです。だから色んなところに連れて行ってあげる、泉佐野市ができるのであれば、連れて行ってあげたら良いのではと思います。

サンシャインコーストは実際、うちの娘が何年前に行かせて頂きました。それまではすごく家が

大好きな娘だったのですが、海外研修に行って帰ってきたら考え方が変わったと、どこへでも自由に行く子どもになり、人の為になんかをしよう、どこかへ行ってみよう、ここだけじゃあかんという人間に変わりました。人を変えるというのは家庭だけでは難しいところもあり、誰かの力で変えてあげる、それは少ない人数ですけども、毎年毎年増えていけば、沢山の人が変わっていく。もしかしたら何年後に泉佐野の市長になる子がでてくるかもしれない。そういう土壌を作っていくのに、ちょっとお手伝いするのも良いのじゃないかなと思います。

北浦委員

私も今年サンシャインコーストにご一緒させて頂いて、これは良い事業だなと感じました。先程の畑谷委員が言われたのと同じような点もあるのですが、一緒に同行した通訳の方からの話を聞いていましたら、あの子とあの子は来た時にすごく内気で暗いイメージだったのに、帰る頃になると、すごい明るくなって、一緒に同行されている先生にも、これをこうして下さいよとか明るく話かけたりしている様子を見て、来た当初はこんな風ではなかったと、そういうことがすごく印象的でした。また、向こうでの授業は、英語を習っているのですが、向こうの先生が上手く引っ張ってくれているのもあって、私の予想以上に、食いつくといった感じで一生懸命勉強しているのが印象的でした。やはり泉佐野に先生に来て頂くことも有意義かもしれませんが、何かちょっと言葉で言えない、一生懸命で、やる気があって楽しい雰囲気もあって。やっぱり行ってみないと分からない何かがあるのかなと思いました。

山下委員

青少年海外事業に対して言っているわけではありません。日体大児童派遣や被災地訪問、英語推進校児童派遣事業に対して申し上げているのです。

北浦委員

日体大の児童派遣事業に関しては、私は運動会で佐野台小学校に行った際に校長先生と話をしたのですが、参加した子どもたちはすごく喜んで良い体験をさせてもらい、大変感謝をしているというのが直接聞きました。そういう意味では良い企画だったのかなと感じました。

山下委員

小学生5、6年生が自己負担も無く、東京行かせてくれたら喜ぶでしょう。

北浦委員

山下委員がおっしゃるように、佐野台小学校に固執するかどうか、その点は私も何とも言えません。ちょっと不公平だなという感じはしますね。

山下委員

これ以上この場で話をしても堂々巡りですので、市長とも相談して、考え直す部分は検討して頂ければと思います。私はこう思っているということはお伝えします。

千代松市長

日体大児童派遣事業も一定、1年目ということもありますし、スポーツ推進のモデル校というような位置づけもあるので。そういう中では佐野台小学校と日体大でまず、何かそういう、もちろん向こうから来て頂いて指導をして頂くという風なことも今後依頼できればと思っています。スポーツの得意な子どもということで、各小学校から選抜した子どもに行ってもらおうという、そういう考えもあるかとは思いますが、小学校として体力の向上を図るというという意味合いで、モデル校という位置づけとすることで、私も第一小学校の時は体育の指定校だったので朝の運動とか、ずっと児童全員が朝早く集合し、毎朝30分間色々な運動を行い、そういう学校もめずらしかったのですが、やはり体育の指定校・モデル校で、全国的な発表をしないといけなかったのか知りませんが、そういう学校単位での取り組みというのが、ある意味今後どれだけ体力がこのことによって向上したのかというような中で、そういう検証も出来るのじゃないかなと思います。被災地訪問事業については、復興が進んだと言っても、やはり常に防災に関しての気持ちというのは持っておかないといけないと思いますし、そういう中ではやはり東日本大震災の中で子どもたち同志の交流では、子どもたちも4年、5年経ってきているので、その当時小さかったかもしれませんが、やはり鮮烈な記憶といいますが、被災地の状況などを、色々な面で実際に話を聞けたりすると思います。それを泉佐野市に持って帰って頂いて、様々な面でフィードバックして頂くというところでは、この事業は泉佐野市の防災教育という面では非常に良いことではないかと思っています。英語教育の推進校、長南小学校に関しても今年度スタートし、実際40名の応募もあったということで、非常に良いなという風に思っています。小学校でオーストラリアに行って、海外のホームステイという中で、この児童たちが今後色々な面で国際交流を担っていただけるような、また、これから中学校でも意識を持って英語に取り組んで頂けたら良いなという風に思っています。色々ご意見はあると思いますが、まだ1年目、2年目という事業もありますし、それをきっちりと検証していくという部分もこれから大事であり、それはそれで引き続きやっていければと思います。やはり一つは関西国際空港の対岸であるという泉佐野市の特性を活かすという意味では、泉佐野市民が関空を利用して様々ところに行き、日本各地・世界各地で幅広く活躍してもらいたいという、そういう人材を育成していくというような方向性も、大きな方向性の中の一つとして掲げています。昨日も本市の名誉市民であります京都大学の諸熊先生に佐野中学校の創立40周年記念ということで講演をして頂きました。先生の講演の中でも、やはり機会があれば海外に行って多くのものを見るのが人生の大きな糧になっていくという話もされていまして。その後、校長室でも、できれば修学旅行なども海外に行けるようなことも考えて行ったら良いのじゃないかというお話も頂きました。関西空港ができた当初は、沖縄など修学旅行も関空を使って行っていたというようなことも聞いていますが、今はなかなか、全市的には取り組めないようなところもありますが、その中で1人でも2人でも、そういう思いを持っていただけるような子どもが出てくるのを期待しているという気持ちがあります。色々ご意見もあるかもしれませんが、引き続きこういったことは進めていければ良いのではと私は考えています。

中藤教育長

英語教育推進事業は長南小学校と長南中学校をモデル校としているので、長南でと思うのですが、例えば派遣事業を長南小学校ではなくて長南中学校にするとしたら、モンゴルとサンシャイン、いわ

ゆる海外に行くのが中学生で、日体大と被災地訪問の国内が小学生といった形で対象者の整理もできるのかなと思うのですが、その辺り、市長はどうお考えですか。

千代松市長

それはそれで、教育委員会で決めて頂けたら良いのではと思います。

中藤教育長

国際交流の件で、他にご意見はありませんか。よろしいでしょうか。

山下委員

私は先に言ったとおり、反対の意見、こう思っていることをお伝えします。何でも賛成というのは良くない、それぞれが感じている意見を言うことも大切な会議だと思っています。

絵画交流については来年は実施しないということですが、予算として、派遣しても受け入れをしてもお金がかかっているということは、相手側はお金を負担していないということですか。

松若学校教育課長代理

双方で出し合うということが原則となっておりまして、こちらから行った場合には向こうの受け入れ機関が費用を負担する、こちらへ来た場合にはこちらが負担するルールです。マラソンランナーの派遣事業と同様のスタイルとなっています。

千代松市長

気持ち的には、もっと多くの児童が関空を使って行って頂けたらなという気持ちはありますが、なにぶんそこまでは財政状況が戻っていないというところもありますので。その中でもやはり、そういう意味あいでは財政危機な時でも前市長は青少年海外研修事業だけは止めずに続けてきたというところもありますし。これからも、数は少ないかもしれませんがサンシャインコーストとか中学生以下の交流とか、わずかかもしれませんが、義務教育の段階から実施できればと思っています。

山下委員

自己負担を求めていくという点については、どうですか。

中藤教育長

そのことについても検討しますが、今まで自己負担を求めていなかったのが、来年度から急にというのなかなか理由づけが難しいですね。将来的に中身を変えた場合などではできるかもしれませんが、同じモンゴルに行く事業で今まで2年間無料で、来年から3万円や5万円など負担を求めるというのは、なかなか難しいと思います。

千代松市長

基本的に修学旅行というのは全員が行かれ、積立などがありますが、こちらは希望者を募って、そ

こで自己負担が5万円必要とか7万円必要ですというのも、なかなか小学校、中学校では厳しいところがあるのかなとは思いますが。希望者を募っておきながら、就学援助というような部分で減免ありますというのも、なかなか、幅広く募って、その応募者の中から行ってもらうという意味では難しいのではないかと思います。

中藤教育長

絵画交流の時は、最優秀賞に選ばれたご褒美みたいな感じで派遣事業を行っていました。英語推進派遣事業は少し違いますが、その代わりに作文を書かせるなどの審査を実施していますので、できれば今後はそのような方向で考えていきたいと思っています。急に来年度から自己負担を求めるというのは、なかなか難しいと思います。

南委員

我々教育委員が引率で参加する場合も自己負担が無いのは気が引けるような気持ちになります。

参加して、すごく良い勉強になったと思うのですが、本当に一人でも多くの子どもたちが海外に行けたら良いと思うので、そう意味でもすごく気が引けるところがあります。

千代松市長

教育委員の皆さんに行って頂いているというのは、非常に有り難いことです。行って頂いて教育長や私の代わりに色々意見交換をして頂くことも大変重要なことだと思います。国際交流というのはただ単に、ある人間だけの交流、個人的な付き合いで友達が海外にいるからというのではなく、町と町との交流ですので、多くの方々、幅広い方々に行って頂くのが良いと思っています。また、公務で行って頂かなければ、もしくは向こうで何かあった場合、市の方で保障できないというところもあります。

中藤教育長

そのあたりは公務と割り切って行って頂きたいと思っています。

樫葉教育総務課長

他に何かありませんか。

予定している案件は以上ですが、その他で何かございませんか。

無いようですので、これもちまして第2回総合教育会議は終了いたします。

長時間にわたり、有難うございました。

(午前10時02分閉会)

上記のとおり、本市総合教育会議の顛末に相違ないことを記すため、ここに署名する。

平成27年 月 日

市長

教育長